

緊急検査

2024/9/1 作成

1. 検査受付

時間内：月～金（平日） 8：30～17：15 内線：3364
時間外：上記以外の時間帯 平日夜間 17：15～8：30 土日祝日24時間
検査部当直：4580

2. 緊急検査等の取扱い

- (1) 緊急検査を提出する際は、検査部受付（時間内）または検査部当直の院内携帯（時間外）に必ず電話連絡を行い、「所属、緊急検査であること」を告げた上、人送またはエアースュータで検査部受付に届ける。
- (2) 緊急検査として扱う項目は下記を参照（3. 緊急検査項目）。それ以外の項目は次の測定日まで保管するが、項目によって検体保存ができないものもあるため提出の際は注意する。
- (3) 時間外に誤って至急検査としてオーダーし提出された場合、主治医に対し検査部から緊急検査へのオーダー変更を求める場合がある。
- (4) 時間経過により検査結果が変動する項目（血液ガス、アンモニア）もあるため、検体採取後は、速やかに検査部に提出する。

3. 緊急検査項目

※ 角括弧 []は臨床判断値を表し、コンピュータチェック（Low、High）に用います。

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基 準 値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
			男性	女性					
生化学検査									
N a	60分	電極法	138～145		mmol/L	青	3mL		共用基準範囲
C l		電極法	101～108		mmol/L				
K		電極法	3.6～4.8		mmol/L			溶血不可	
C a		アルセナゾⅢ法	8.8～10.1		mg/dL				
M g		酵素法	1.8～2.4		mg/dL				臨床検査法提要 第35版
I P		酵素法	2.7～4.6		mg/dL				共用基準範囲
UN		ウレアーゼ・G L D H法	8～20		mg/dL				
U A		ウリカーゼ・POD法	3.7～[7.0]7.8	2.6～5.5[7.0]	mg/dL				
クレアチニン		酵素比色法	0.65～1.07	0.46～0.79	mg/dL				
eGFR(GFR推算式)		計算	60以上		mL/min/1.73m ²				臨床検査のガイドライン JSLM2021
総タンパク（T P）		ビウレット法	6.6～8.1		g/dL			共用基準範囲	
A l b u m i n		B C P改良法	4.1～5.1		g/dL				
A / G比		計算	1.32～2.23						
総ビリルビン		B O D法	0.4～[1.2] 1.5		mg/dL				
直接ビリルビン		B O D法	0～0.4		mg/dL				臨床検査法提要 第35版
間接ビリルビン		計算	0～0.8		mg/dL				
A S T		J S C C標準化対応法	13～30		U/L			溶血不可	共用基準範囲
A L T		J S C C標準化対応法	10～[30] 42	7～23 [30]	U/L				
L D		I F C C法	124～222		U/L			溶血不可	
C K		J S C C標準化対応法	59～248	41～153	U/L				
C K-MB		免疫阻害法	0～6		U/L				臨床検査法提要 第35版
A L P		I F C C法	38～113		U／L				共用基準範囲
γ-G T		J S C C標準化対応法	13～64	9～32	U/L				

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基 準 値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
			男性	女性					
L A P	60分	G S C C準拠	30～70		U/L	青	3mL		臨床検査法提要 第34版
C h E		J S C C標準化対応法	240～486	201～421	U/L				共用基準範囲
アミラーゼ		J S C C標準化対応法	44～132		U/L				臨床検査法提要 第35版
P - A m y l a s e		免疫阻害法	15～50		U/L				共用基準範囲
T - C h o l		COD-POD法	142～[219] 248		mg/dL				試薬添付文書
F - C h o l		COD-POD法	33～63		mg/dL				臨床検査法提要 第35版
エステル比		計算	60～80						共用基準範囲
H D L - C h o l		酵素法（直接法）	38 [40]～90	[40] 48～103	mg/dL				臨床側と協議の上で設定
L D L - C h o l		酵素法（直接法）	65～[139] 163		mg/dL				共用基準範囲
L D L / H D L		計算	3.0未満						臨床側と協議の上で設定
T G		GK-GPO法（遊離グリセロール消去）	40～[149] 234	30～117 [149]	mg/dL				共用基準範囲
血糖スクリーニング		ヘキソキナーゼ法	73～109		mg/dL				
C R P		ラテックス免疫比濁応	0～0.14		mg/dL				
アンモニア（NH3）		酵素法	9～47		μ mol/L			紫細	2mL
血液ガス分析									
p H	15分	電位差測定法	(A)7.35～7.45			血液ガス測定用シリンジ	1.5mL	採取後、気泡除去と攪拌し、速やかに提出 体温補正が必要な場合、体温をラベルに記入	機器メーカーの参考資料（ラジオメータ）
P C O 2		電位差測定法	(A)35～48	(A)32～45	mm H g				
P O 2		電流測定法	(A)83～108		mm H g				
H C O 3 -		計算	(A)21～28		mmol/L				
B E		計算	(A) - 2 ～ + 3		mmol/L				
O 2 C T		計算	(A)18.8～22.3	(A)15.8～19.9	mL / d L				
O 2 S A T		可視吸光分光法	(A)95～99		%				
T C O 2		計算	基準値チェック無し		mmol/L				
F O 2 H b		可視吸光分光法	基準値チェック無し		%				
F C O H b		可視吸光分光法	(A)0.0～0.8		%				
F M e t H b		可視吸光分光法	(A)0.2～0.6		%				
F H H b		可視吸光分光法	基準値チェック無し		%				
H c t		計算	基準値チェック無し		%				
Na ⁺		電位差測定法	136～146		mmol/L				
K ⁺		電位差測定法	3.5～5.0		mmol/L				
CL ⁻		電位差測定法	98～106		mmol/L				
Ca ²⁺		電位差測定法	1.15～1.29		mmol/L				
Lac		電流測定法	5～14		mg/dL				

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基 準 値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
			男性	女性					
血清検査									
H B s 抗原	80分	CLIA	（－） {<0.05}		IU/mL	青	3mL	血液暴露時は、従来通り伝票にて依頼をお願いします。	試薬添付文書
T S H			0.35～4.94		μIU/mL				
F T 4			0.70～1.48		ng/dL				
F T 3			1.68～3.67		pg/dL				
プロカルシトニン			0.05未満		ng/mL				
NT-proBNP	60分		125.0以下		pg/dL	紫細	2mL		
心筋トロポニンI			26.2以下		pg/mL				
尿中N G A L	80分		30.5以下 (クレアチン補正值：21.7 μg/gCr以下)		ng/mL	滅菌スピ ッツ	2mL		
血液検査									
白血球数（WBC）	30分	フローサイトメトリー法	3.3～8.6		x10 ³ /μL	紫細	2 mL	採血後静かに転倒混和	共用基準範囲
赤血球数（RBC）		シースフローDC検出法	4.35～5.55	3.86～4.92	x10 ⁶ /μL				
ヘモグロビン濃度(Hb)		SLS-ヘモグロビン法	13.7～16.8	11.6～14.8	g/dL				
ヘマトクリット（Ht）		計算	40.7～50.1	35.1～44.4	%				
M C V		ヒストグラムより算定	83.6～98.2		fL				
M C H		計算	27.5～33.2		pg				
M C H C		計算	31.7～35.3		g/dL				
血小板数（PLT）		シースフローDC検出法	158～348		x10 ³ /μL				
網赤血球		フローサイトメトリー法	0.5～2.5		%				
絶対数		フローサイトメトリー法	0.05～0.10		x10 ⁶ /μL				
自動機器白血球5分類	30分	フローサイトメトリー法						臨床検査法提要 第35版	
好中球			38.5～80.5		%				
好酸球			0～8.5		%				
好塩基球			0～2.5		%				
リンパ球			16.5～49.5		%				
単球			2～10		%				
凝固検査									
プロトロンビン時間（PT）	1時間	Quick一段法（散乱光度法）	10.61～13.8		秒	黒細	1.8mL	白色の標線まで正確に採血し、血液と抗凝固剤が十分に混ざるよう静かに転倒混和	院内検討データ
活性値（PTカッセル）		Quick一段法（散乱光度法）	76.0～124.0		%				
INR（PT-INR）		Quick一段法（散乱光度法）	0.88～1.12						
活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）		Langdell法（散乱光度法）	21～42		秒				
フィブリノゲン定量		トロンビン時間法（散乱光度法）による凝固終了点検出法	140～340		mg/dL				試薬添付文書
Dダイマー定量			<1		μg/mL				
フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）		ラテックス近赤外比濁法	<5		μg/mL				
アンチトロンビンIII（AT3）		合成基質法	80～130		%				

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
一般検査									
尿定性検査									
pH	20分	試験紙法	4.5～7.5			滅菌スピッツ	尿 10.0 mL	1.検体の取り扱い 参照	臨床検査法提要第35版
比重			1.005～1.030						
蛋白			(-)						
糖			(-)						
ケトン体			(-)						
潜血反応			(-)						
ウロビリノーゲン			(+-)						
ビリルビン			(-)						
亜硝酸塩			(-)						
白血球			(-)						
尿中有形成分定量（尿沈渣定量）									
赤血球数(RBC)	30分	フローサイトメトリー法	13.6 以下	22.7 以下	個/μL	滅菌スピッツ	尿 10.0 mL	1.検体の取り扱い 参照	機器メーカーの参考資料 (シスメックス)
白血球数(WBC)			13.2 以下	16.9 以下	個/μL				
上皮細胞(EC)			5.2 以下	39.6 以下	個/μL				
円柱(CAST)			0.40 以下	0.56 以下	個/μL				
細菌数(BACT)			26.4 以下	130.7 以下	個/μL				
髄液検査									
髄液細胞数	30分	シースフローDC検出法	5以下		/μL	滅菌スピッツ	0.5 mL	色調の報告は致しません	
髄液細胞分類		フローサイトメトリー法	単核球 97～100 多核球 0～3		%				
髄液C I	60分	電極法	120～125		mmol/L	滅菌スピッツ	3mL		臨床検査法提要 第35版
髄液T P		ピロガロールレッド法	10～40		mg/dL				
髄液Glucose		ヘキソキナーゼ法	50～75		mg/dL				

一 般 検 査

2024/9/1 作成

1. 検体の取扱い

(1) 尿一般検査

- a. 尿一般検査の採尿の際は、検査直前の激しい運動を避け、採尿前に尿道口を清拭後、中間尿を採取することが望ましい。
- b. 尿定性検査と尿沈渣定量（尿中有形成分定量）検査の依頼検体は遅くとも4時間以内に検査する必要があるため、採尿した検体はすみやかに提出する。
- c. 尿中有形成分定量検査において異常所見が認められたものは、目視法（顕微鏡による尿沈渣所見）での報告を行う。
- d. 尿定性検査，尿沈渣定量では採取バーコードラベルが2枚発行されるので，1枚を検査部提出用滅菌スピッツに貼る。もう1枚は尿カップ(尿採取用)に利用できる。

(2) 赤血球沈降速度測定

- a. 採血後、室温で2時間以内、4℃で6時間以内となっているが、原則としてなるべく早く測定する必要があるため、採血した検体はすみやかに提出する。

2. 検査方法，基準値

(1) 尿定性検査

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
pH	20分	試験紙法	4.5～7.5			滅菌スピッツ	尿 10.0 mL	1.検体の取り扱い 参照	臨床検査法提要第35版
比重			1.005～1.030						
蛋白			(-)						
糖			(-)						
ケトン体			(-)						
潜血反応			(-)						
ウロビリノーゲン			(+-)						
ビリルビン			(-)						
亜硝酸塩			(-)						
白血球			(-)						

(2) 尿中有形成分定量（尿沈渣定量）

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
赤血球数(RBC)	60分（フロー方式のみは30分）	フローサイトメトリー法 または目視法	13.6 以下	22.7 以下	個/ μ L	滅菌スピッツ	尿 10.0 mL	1.検体の取り扱い 参照	機器メーカーの参考資料（シスメックス）
白血球数(WBC)			13.2 以下	16.9 以下	個/ μ L				
上皮細胞(EC)			5.2 以下	39.6 以下	個/ μ L				
円柱(CAST)			0.40 以下	0.56 以下	個/ μ L				
細菌数(BACT)			26.4 以下	130.7 以下	個/ μ L				

(3) 赤血球沈降速度測定（血沈）

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値（1時間値）		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
赤血球沈降速度測定	60分	画像処理による自動化法	2-10	3-15	mm	専用採血管	血液		臨床検査法提要第35版

(4) 糞便中ヘモグロビン

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値	単位	採取容器	採取量	備考	基準値の出典（引用）
糞便中ヘモグロビン	60分	ラテックス凝集法	(－)		専用容器	糞便	室温保存1週間以内、冷蔵保存2週間以内であれば	機器メーカーの参考資料（栄研化学）

一 般 検 査

2024/9/1 作成

1. 検体の取扱い

(1) 尿一般検査

- a. 尿一般検査の採尿の際は、検査直前の激しい運動を避け、採尿前に尿道口を清拭後、中間尿を採取することが望ましい。
- b. 尿定性検査と尿沈渣定量（尿中有形成分定量）検査の依頼検体は遅くとも4時間以内に検査する必要があるため、採尿した検体はすみやかに提出する。
- c. 尿中有形成分定量検査において異常所見が認められたものは、目視法（顕微鏡による尿沈渣所見）での報告を行う。
- d. 尿定性検査，尿沈渣定量では採取バーコードラベルが2枚発行されるので，1枚を検査部提出用滅菌スピッツに貼る。もう1枚は尿カップ(尿採取用)に利用できる。

(2) 赤血球沈降速度測定

- a. 採血後、室温で2時間以内、4℃で6時間以内となっているが、原則としてなるべく早く測定する必要があるため、採血した検体はすみやかに提出する。

2. 検査方法，基準値

(1) 尿定性検査

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
pH	20分	試験紙法	4.5～7.5			滅菌スピッツ	尿 10.0 mL	1.検体の取り扱い 参照	臨床検査法提要第35版
比重			1.005～1.030						
蛋白			(－)						
糖			(－)						
ケトン体			(－)						
潜血反応			(－)						
ウロビリノーゲン			(＋－)						
ビリルビン			(－)						
亜硝酸塩			(－)						
白血球			(－)						

(2) 尿中有形成分定量（尿沈渣定量）

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
赤血球数(RBC)	60分（フロー方式のみは30分）	フローサイトメトリー法 または目視法	13.6 以下	22.7 以下	個/ μ L	滅菌スピッツ	尿 10.0 mL	1.検体の取り扱い 参照	機器メーカーの参考資料（シスメックス）
白血球数(WBC)			13.2 以下	16.9 以下	個/ μ L				
上皮細胞(EC)			5.2 以下	39.6 以下	個/ μ L				
円柱(CAST)			0.40 以下	0.56 以下	個/ μ L				
細菌数(BACT)			26.4 以下	130.7 以下	個/ μ L				

(3) 赤血球沈降速度測定（血沈）

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値（1時間値）		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
赤血球沈降速度測定	60分	画像処理による自動化法	2-10	3-15	mm	専用採血管	血液		臨床検査法提要第35版

(4) 糞便中ヘモグロビン

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値	単位	採取容器	採取量	備考	基準値の出典（引用）
糞便中ヘモグロビン	60分	ラテックス凝集法	(－)		専用容器	糞便	室温保存1週間以内、冷蔵保存2週間以内であれば	機器メーカーの参考資料（栄研化学）

生 化 学 検 査

2024/9/1 作成

1. 検体の採取

(1) 採血

- a. 生化学検査のための血液は、検査項目数またはセット検査に応じた必要量を採血する。採血量が不足する場合は、検査の優先順位を連絡する。
- b. 溶血しないように採血する。また、原則として空腹時に採血する。
- c. 血清を検体とする採血管（検体採取容器 青，桃，茶，茶太，黄土）は、内壁に凝固促進剤が塗布されているので、混ざりよう静かに転倒混和する。
- d. 血糖検査用検体は、専用採血管（NaF入り真空採血管）に2 mL採血した後、解糖阻止剤が完全に溶解するよう、又、十分に血液と混ざりよう静かに転倒混和する。
- e. ICGは、光に対して不安定であり退色しやすいので採血後速やかに提出する。
- f. 輸液中の採血は、反対側の部位から行なう。

(2) 採尿

- a. 随時尿は外陰部を清拭後、中間尿で採取するのが望ましい。
- b. 一日蓄尿を検体とする場合、採尿開始前に完全に排尿を行い、その後の尿から全量を採取し、24時間経過時に尿意の有無に関わらず、採取する。
蓄尿をよく混和し、その一部（10mL）をスピッツに入れて提出する（一日尿量をラベルに記入）。
- c. 尿化学ならびに糖負荷試験の尿検体は、防腐剤を使用しない。提出時間に間に合わないときは電話連絡後、検査部受付へ提出する。

2. ICG負荷試験

- (1) 注射：ジアグノグリーン25mgを注射用蒸留水5mLに溶解し（用時調整）、体重10kgにつき1mLの割合で静注する。
- (2) 採血：血中停滞率測定の場合には、注射後正確に15分後、血中消失率測定の場合には、注射後5, 10, 15分後の3回、注射の反対側の肘静脈から採血する。
- (3) 注意事項
- a. ショックを予防するために、十分な問診を行う。
- b. 必ず添付の溶解液で完全に溶解し、その他の溶解液は使用しない。
- c. 採血は早朝空腹時に行い、注射後から採血終了まで安静仰臥させる。
- d. 肥満、浮腫、腹水などの患者のICG注射量は標準体重から計算する。
- e. ICGは血中からの消失が早いので、注入時間は30秒以内に終了する。また、採血時間も±15秒以内に採血を終了する。
- f. ICGは光線に不安定で退色しやすいので、採血後速やかに提出する。

3. 検査方法、基準値

(1) 生化学検査

※ 角括弧 []は臨床判断値を表し、コンピュータチェック（Low、High）に用います。

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
N a	60分	電極法	138～145		mmol/L	真空採血管 青，桃，茶， 茶太のいずれか	青 3mL 桃 4mL 茶 6mL 茶太 9mL		共用基準範囲
C l		電極法	101～108		mmol/L				
K		電極法	3.6～4.8		mmol/L			溶血不可	
C a		アルセナゾIII法	8.8～10.1		mg/dL				
M g		酵素法	1.8～2.4		mg/dL				臨床検査法提要 第35版
I P		酵素法	2.7～4.6		mg/dL				共用基準範囲
Z n		比色法	80～130		μg/dL				参考文献（亜鉛欠乏症の診
U N		ウレアーゼ・G L D H	8～20		mg/dL				共用基準範囲
U A		ウリカーゼ・P O D 法	3.7～[7.0] 7.8	2.6～5.5 [7.0]	mg/dL				
Creatinine		酵素比色法	0.65～1.07	0.46～0.79	mg/dL				

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典(引用)
			男性	女性					
e G F R (G F R 推 算 式)	60分	計 算	60以上		mL/min/1.73m ²	真空採血管 青, 桃, 茶, 茶太のいずれか	青 3mL 桃 4mL 茶 6mL 茶太 9mL		参考文献（臨床検査のガイ
T P		ビウレット法	6.6～8.1		g/dL				共用基準範囲
Albumin		B C P 改良法	4.1～5.1		g/dL				
A / G		計 算	1.32～2.23						
T-Bilirubin		B O D 法	0.4～[1.2] 1.5		mg/dL			遮光	臨床検査法提要 第35版
D-Bilirubin		B O D 法	0～0.4		mg/dL			遮光	
I-Bilirubin		計 算	0～0.8		mg/dL			遮光	
A S T		J S C C 標準化対応法	13～30		U / L			溶血不可	共用基準範囲
A L T		J S C C 標準化対応法	10～[30] 42	7～23 [30]	U / L				
L D		I F C C 法	124～222		U / L			溶血不可	
C K		J S C C 標準化対応法	59～248	41～153	U / L				
C K - M B		免疫阻害法	0～6		U / L				臨床検査法提要 第35版
A L P		I F C C 法	38～113		U / L				共用基準範囲
γ - G T		J S C C 標準化対応法	13～64	9～32	U / L				
L A P		G S C C 準拠	30～70		U / L				臨床検査法提要 第34版
C h E		J S C C 標準化対応法	240～486	201～421	U / L				共用基準範囲
A m y l a s e		J S C C 標準化対応法	44～132		U / L				
P - A m y l a s e		免疫阻害法	15～50		U / L				臨床検査法提要 第35版
T - C h o l		C O D - P O D 法	142～[219] 248		mg/dL				共用基準範囲
F - C h o l		C O D - P O D 法	33～63		mg/dL				試薬添付文書
エステル比		計 算	60～80		%				臨床検査法提要 第35版
H D L - C h o l		酵素法（直接法）	M 38 [40]～90	F [40] 48～103	mg/dL				共用基準範囲
L D L - C h o l		酵素法（直接法）	65～[139] 163		mg/dL				共用基準範囲
LDL/HDL		計 算	3.0未満						臨床側と協議の上で設定
T G		G K - G P O 法	M 40～[149] 234	F 30～117 [149]	mg/dL				共用基準範囲
N E F A		A C S - A C O D 法	0.14～0.85		mEq/L				臨床検査法提要 第35版
C R P		ラテックス凝集法	0～0.14		mg/dL				共用基準範囲
Glucose screening		ヘキシキナーゼ法	73～109		mg/dL				
G l u c o s e		GOD電極法	73～109		mg/dL	灰	全血 2 mL	食後血糖の依頼の場合	
F e		Nitroso-PSAP法	40～188		μ g / d L	黄土	全血 3 mL		
Osmolality	当日	氷点降下法	275～290		mOsm/kg	青	2 mL		臨床検査法提要 第35版
I C G		血中停滞率	15分値 0～10		%	青	各3 mL	保存不可,	
H b A 1 c (N G S P)	30分	H P L C 法	4.9～6.0		%	灰	2 mL		共用基準範囲
H b F		H P L C 法	0～1.5		%				院内検討データ
グリコアルブミン (G A)	60分	酵素法	12.3～16.5		%	青	3 mL		臨床検査法提要 第35版
髄液 C I		電極法	120～125		mmol/L	スピ ッツ	3 mL		
髄液 T P		ピロガロールレッド法	10～40		mg/dL				
髄液 Glucose		ヘキシキナーゼ法	50～75		mg/dL				

(2) 尿化学検査

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値	単位	採取容器	採取量	備考	基準値の出典（引用）
N a	60分	電極法		mmol/L	スピッツ	10 mL	125～250 mmol/day	臨床検査法提要 第35版
C l		電極法		mmol/L			70～250 mmol/day	
K		電極法		mmol/L			50～100 mmol/day	
C a		アルセナゾIII法		mg/dL			100～200 mg/day	
I P		酵素法		mg/dL			0.4～0.8 g/day	
U N		ウレアーゼ・G L D H法		mg/dL			14～28 g/day	
U A		ウリカーゼ・P O D法		mg/dL			0.4～0.8 g/day	
Creatinine		酵素比色法		mg/dL			500～1500 mg/day	
T P		ピロガロールレッド法		mg/dL			20～120 mg/day	
Amylase		JSCC標準化対応法	50～500	U/L				
P-Amylase		免疫阻害法		U/L				参考文献（臨床検査のガイ
尿蛋白/尿クレアチニン比		計算	0.15未満	g/g・Cr				
Osmolality	当日	氷点降下法	50～1300	m O sm/Kg				
N A G	60分	M P T-N A G 基質法	< 11.5	U/L		各時間10 mL		臨床検査法提要 第35版
尿糖	60分	ヘキソキナーゼ法		mg/dL			0.04～0.085 g/day	試薬添付文書
負荷尿糖	60分	ヘキソキナーゼ法		mg/dL				臨床検査法提要 第35版

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

血 清 検 査

2025/4/1 改訂

1. 検体の採取

- a. 血液は、抗凝固剤を加えずに採血し、全血のまま提出する。
- b. クームステストは、血清分離剤が入っていない専用採血管に採血し、検体は冷やさないようにして速やかに提出する（保存不可）。
- c. BNPは、検体採取後、速やかに検査部に提出する。
- d. 溶血血清、乳び血清は判定に支障をきたすことがあるので、採血の際に注意する。
- e. 緊急手術などのため、感染症検査（HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体、梅毒RPR）を至急で依頼する場合は、必ず血清検査室（内線6371）へ連絡する。

2. 定量検査等の取扱い

（1）梅毒定量検査は、定性検査が陽性の場合にのみ実施する。

3. 検査方法、基準値

※1 採取容器：個別採血が必要な項目以外は、必要採血量により真空採血管（分離剤入）青、桃、茶、茶太のいずれかを使用

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）		
H B s 抗原	80分	CLIA	（－）	<0.05	IU/mL	※ 1	青 3mL 桃 4mL 茶 6mL 茶太 9mL		試薬添付文書		
H B s 抗体				<10.0	mIU/mL						
H C V 抗体				<1.0	S/CO						
H B e 抗原				<1.0	S/CO						
H B e 抗体				<50	%Inh(抑制率)						
H B c 抗体				<1.0	S/CO						
IgM型HBc抗体				<1.0	S/CO						
H A 抗体				<1.0	S/CO						
IgM型H A 抗体				<0.8	S/CO						
H I V -抗原/抗体				<1.0	S/CO						
H T L V -I 抗体				<1.0	S/CO						
梅毒R P R定性		ラテックス凝集法	（－）					髄液の場合はスピッツに1mL			
梅毒R P R定量			<1.0	RU							
梅毒T P 抗体定性		CLIA	（－）					2011.01.04検査内容変更			
梅毒T P 抗体定量										<1.00	S/CO
フェリチン				M 21.8～274.7 F 4.6～204.0	ng/mL			2020.10.01検査部内実施			
T S H（甲状腺刺激ホルモン）				0.35～4.94	μIU/mL						
遊離T 4 精密				0.70～1.48	ng/dL						
遊離T 3 精密				1.68～3.67	pg/mL						
AFP(α-フェトプロティ) 精密				<13.4	ng/mL						
AFP(α-フェトプロティ) レクチン分画				LBA法	L3分画 10.0未満					%	院内検討データ
					試薬添付文書						

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）	
CEA（癌胎児性抗原）精密	80分	CLIA	≦5.0		ng/mL	※1	青 3mL 桃 4mL 茶 6mL 茶太 9mL		試薬添付文書	
C A 1 9－9 精密			≦37.0		U/mL					
C A 1 2 5 精密			≦35.0		U/mL					
S C C（扁平上皮癌関連）抗原精密			≦1.5		ng/mL					
P A（P S A）精密			≦4.00		ng/mL				参考文献 （医学と薬学 71(5)）	
シフラ21－1 （サイトケラチン19フラグメント）精密			≦3.5		ng/mL					
プロカルシトニン			60分	CLIA	0.05未満			ng/mL	青	3ml
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）	≦18.4				pg/mL	紫プ2	2ml			
メトトレキサート血中濃度	48H：1未満 72H：0.1未満				μmol/L	黄土	3ml	コンピュータの異常値チェックは48Hで行います。		
インターロイキン2受容体	3時間	ラテックス凝集比濁法	204～587		U/mL	※1	青 3mL 桃 4mL 茶 6mL 茶太 9mL	2023.09.01 測定装置変更	試薬添付文書	
リウマチ因子（定量）			≦15		IU/mL					
A S O 定量			≦239	(2023.9変更)	IU/mL					
I g G 定量		免疫比濁法	861～1747		mg/dL	※1	青 3mL 桃 4mL 茶 6mL 茶太 9mL	リコル・尿IgGの報告下限値<0.6	共用基準範囲	
I g A 定量			93～393		mg/dL					
I g M 定量			M 33～183	F 50～269	mg/dL					
C 3 定量			73～138		mg/dL					
C 4 定量			11～31		mg/dL					
マイクロアルブミン			<30.0		mg/g・Crea					スピッツ
IgGインデックス			IgGインデックス：計算※1 リコルアルブミン：免疫比濁法 血清アルブミン：BCP改良法	0.73以下			青、スピッツ	血清 0.5mL、 リコル 0.5mL	*1 IgGインデックス＝（リコルIgG ÷リコルアルブミン）÷（血清IgG ÷血清アルブミン） （リコルアルブミン（mg/L）と血清アルブミン（g/dL）は、測定単位をmg/dLに変換して計算に用いた。）	外注先と同じ基準値を採用 （y＝0.9x＋0.04、r＝0.937、n＝11）
K L - 6	4時間	赤血球凝集反応	<500		U/mL	※1	青 3mL、 桃 4mL、 茶 6mL		試薬添付文書	
P I V K A－I I 定量			<40		mAU/mL					
直接クームテスト										
間接クームテスト			（－）				3ml	分離剤不可，冷却不可，個別に採血	臨床検査法提要 第35版	

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

血液検査

2024/9/1 作成

1. 検体の採取

- (1) 原則として、早朝空腹時に採血する。
- (2) 抗凝固剤入り採取容器に採血する場合は、所定量を採血後、血液と抗凝固剤が十分に混ざるように、静かに転倒混和する。
- (3) 血液検査は当日中に検査または前処理を行う必要があるため、採血した検体は受付時間内に速やかに提出する。検体の変質を避けるためには、採血後遅くとも3時間以内の提出を要する。

2. 検体の取扱い

(1) 末梢血一般検査、末梢血液像、網状赤血球数

- a. EDTA-2K入り真空採血管（紫細）に正確に2mL採血し、血液と抗凝固剤が十分に混ざるよう静かに転倒混和する。
- b. 小児・未熟児で所定量の採血が困難な場合は、EDTA-2K入り微量採血管に約300 μ L採血した検体にも対応する。
なお微量採血管では、血液量が少なく凝固し易いため、短時間で採血し、血液と抗凝固剤が十分に混ざるよう静かに転倒混和する。

(2) 凝固・線溶検査

- a. 3.2%クエン酸Na・液状抗凝固剤入り真空採血管（黒細）に白色の標線まで正確に採血し、血液と抗凝固剤が十分に混ざるよう静かに転倒混和する。
（採血量は1.8mLであり、血液と液状抗凝固剤の割合は9：1になる。）
- b. 小児・未熟児で所定量の採血が困難な場合は、3.2%クエン酸Na・液状抗凝固剤入りの微量採血管に約900 μ L採血した検体にも対応する。
なお微量採血管では、血液量が少なく凝固し易いため、短時間で採血し、血液と抗凝固剤が十分に混ざるよう静かに転倒混和する。
- c. 血管壁中の組織トロンボプラスチンの混入を避けるため、同一箇所を何度も穿刺することなく、血管を一気に刺し、迅速に採血する。

(3) 骨髓検査

- a. 前日までに予約を要する。ただし、医師が必要と認めた場合は当日予約も対応する。
- b. 電話予約の際は、検査項目、採取容器などを申し添えること。

(4) 特殊染色

- a. 末梢血の場合は、EDTA-2K入り採血管（紫細）と依頼ラベルを検査部へ提出する。
ただし、アルカリフォスファターゼ染色（NAPスコア）は時間経過により染色性が劣るため、採血後（午前8：30以降）直ちに提出する。

(5) 血小板凝集能検査

- a. 受付日、検査日とも、火曜日と木曜日。前日までに予約を要する。
- b. 採血は、午前8：30以降（早朝空腹時採血が望ましい）に行ない、直ちに提出する。
- c. 3.2%クエン酸Na・液状抗凝固剤入り真空採血管（黒4）に正確に4.5mL・2本採血し、血液と抗凝固剤が十分に混ざるよう静かに転倒混和する。
- d. 検査に影響を及ぼす薬剤があるので、注意する。
- e. 最大凝集率（%）および凝集パターンを報告する。

3. 検査方法、基準値

(1) 血液検査項目

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基 準 値		単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）				
			男性	女性									
白血球数	30分	フローサイトメトリー法	3.3～8.6		×10 ³ /μL	紫細	2mL 採血後、転倒混和	採血量は，C B C，網状赤血球数，末梢血液像の全項目でも，2 mLで可	共用基準範囲				
赤血球数		シースフローDC検出法	4.35～5.55	3.86～4.92	×10 ⁶ /μL								
血色素量		SLS-ヘモグロビン法	13.7～16.8	11.6～14.8	g/dL								
ヘマトクリット値		計算	40.7～50.1	35.1～44.4	%								
血小板数		シースフローDC検出法	158～348		×10 ³ /μL								
M C V		ヒストグラムより算定	83.6～98.2		fL								
M C H		計算	27.5～33.2		pg								
M C H C		計算	31.7～35.3		g/dL								
網赤血球		フローサイトメトリー法	0.5～2.5		%								
網赤血球（実数）		フローサイトメトリー法	0.05～0.10		×10 ⁶ /μL								
末梢血液像													
好中球		フロー方式：30分 目視法：3時間 （注意）	フロー方式または目視法	38.5～80.5						%			
桿状核球	0.5～6.5												
分葉核球	38～74												
好酸球	0～8.5												
好塩基球	0～2.5												
リンパ球	16.5～49.5												
単球	2～10												
好中球一次	血液像迅速報告として「好中球一次報告」を行います。詳細は、以下のとおりです。												

注意：但し，末梢血液像（分類装置によるフロー方式）は，分類パターンの異常や異常細胞の存在が疑われる場合には目視になるため至急報告から外れる

好中球一次報告の利用拡大について

現在、血液像分類は分析装置にて問題がない場合はフローデータ（機械値）を報告し、機械が異常を検知した場合は目視報告しています。

目視法の場合は結果報告までに長時間を要するため、至急報告の対象外となっています。

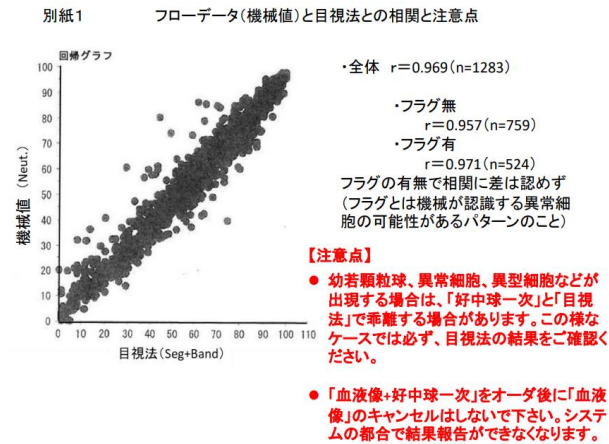
例外に、通院治療センターに対しては、機械値の好中球％を一次報告する運用を行っていますが、他診療科からも好中球％の結果問い合わせが多くあります。

全診療科に対して好中球一次報告の利用拡大することに関し、令和元年度第1回検査部会にて審議され、承認されました。

依頼にあたっては血算セット、血算・凝固セットで「血液像+好中球一次」を選択してください。

なお、「血液像+好中球一次」オーダー後に「血液像」をキャンセルされますと、結果報告ができなくなりますのでご注意ください。

また、機械値と目視法との相関、注意点については別紙1を、電子カルテでの結果参照については別紙2、3を参照ください。



別紙2 機械値で確定した場合の結果の見方

採取日時: 2019-09-24 採取時刻: 依頼科:

材料コメント:

血液検査	
血液	
WBC(白血球数)	1.6
RBC(赤血球数)	1.79
Hb(ヘモグロビン)	6.2
Ht(ヘマトクリット)	18.6
MCV	103.9
MCH	34.6
MCHC	33.3
RDW	18.1
Plt(血小板数)	
PCT	****
MPV	****
PDW	****
IPF	15.3
Hemogram(血液像)	
Neutro(好中球)	23.7
Eosino(好酸球)	0.6
Baso(好塩基球)	0.0
Lymph(リンパ球)	27.1
Mono(単球)	18.6
血液像好中球一次報告	23.7

血液像の結果が機械値で確定された場合、「Neutro(好中球)」と「血液像好中球一次報告」に同じ結果が同時に表示されます。

機械値で確定した場合、同じ結果が同時に入る

別紙3 好中球一次報告にフラグが立った場合

血液検査		
血液		
WBC(白血球数)	1.6	Mono(単球)
RBC(赤血球数)	1.79	AtypLym(異型リンパ球)
Hb(ヘモグロビン)	6.2	Meta(後骨髄球)
Ht(ヘマトクリット)	18.6	Myelo(骨髄球)
MCV	103.9	Blas(芽球)
MCH	34.6	Other
MCHC	33.3	NRBC(有核赤血球)
RDW	18.1	CRP1
Plt(血小板数)		CRP2
PCT	****	
MPV	****	血液像好中球一次報告
PDW	****	23.7
IPF	15.3	
Hemogram(血液像)		
Neutro(好中球)		
Band(環状核好中球)		
Seg(分葉核好中球)		
Eosino(好酸球)		
Baso(好塩基球)		
Lymph(リンパ球)		

まず、「血液像好中球一次報告」の欄に、機械値が仮報告されます。その際、血液像の項目は空欄のままになり目視中となります。

その後、目視法結果が登録されると、仮報告した「血液像好中球一次報告」の結果が消え、「Band」「Seg」に分類された好中球の結果が入り最終報告となります。

必ず、目視法結果の確認をお願い致します。

(2) 凝固・線溶検査

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基 準 値	単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
プロトロンビン時間（PT）	1時間	Quick一段法（散乱光度法）	10.6～13.8	秒	黒細	1.8 mL	白色の標線まで正確に採血し、血液と抗凝固剤が十分に混ざるよう転倒混和	院内検討データ
活性値（PT _{カッセイ} ）			76.0～124.0	%				
INR（PT-INR）			0.88～1.12					
活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）		Langdell法（散乱光度法）	21～42	秒				
フィブリノゲン定量		トロンビン時間法（散乱光度法）による凝固終了点検出法	140～340	mg/dL				
フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）		ラテックス近赤外比濁法	<5	μg/mL				
アンチトロンビンⅢ（活性値）		合成基質法	80～130	%				
Dダイマー定量		ラテックス近赤外比濁法	<1	μg/mL				
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	4時間	CLEIA法	<3	ng/mL			白色の標線まで正確に採血し、血液と抗凝固剤が十分に混ざるよう転倒混和 検査日：月～金	試薬添付文書
プラスミン・α2プラスミンインヒビター複合体(PIC)		免疫比濁法	<0.8	μg/mL				
可溶性フィブリン（SF）		免疫比濁法	<5	μg/mL				
血小板凝集能	当日中に報告	比濁法			黒4	2本採血 (4.5mL×2)	予約検査：検査予定日の前日までにオーダーリング入力	

(3) 血液染色

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基 準 値	単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
PO染色（末梢血液）	1～3日	D A B 法 朝長法 Periodic asid Schiff法 ベルリンブルー法 α -ナフチルプチレート・ナフトールAS-Dクロロアセテートエステラーゼ二重染色 MG染色			塗抹標本 各2～3枚		末梢血液で行う場合、 採取容器「紫細」も可 検査日：月～金	
PO染色（骨髓）								
ALP染色（末梢血液）								
PAS染色（骨髓）								
FE染色（骨髓）								
エステラーゼ 染色（末梢血液）								
エステラーゼ染色（骨髓）								
骨髓像								

(4) その他

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基 準 値	単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
M P O - A N C A	4時間	C L E I A	<3.5	U/mL	青	2mL	検査日：月～金	試薬添付文書
P R 3 - A N C A			<3.5					
抗 d s -DNA抗体			≦12.0	IU/mL				
抗 s s -DNA抗体			≦25.0	AU/mL				

(5) 髄液検査

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基 準 値	単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
髄液細胞数	30分	シースフローDC検出法	5以下	/ μ L	滅菌スピッツ	0.5mL	保存検体での提出不可	臨床検査法提要35版
髄液細胞分類		フローサイトメトリー法	単核球：97～100 多核球：0～3	%				

(6) 骨髓検査

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値	単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
有核細胞数	2～4日	MG染色	10万～25万	/μL	塗抹標本 数枚		検査日：月～金	スタンダード検査血液学 第4版
巨核球			50～150	/μL				
			臨床判断値 （正常骨髓における含有率）	%				
			95%信頼区間					
【顆粒球系】			49.2～65.0					
			33.6～73.6					
骨髓芽球			0.2～1.5					
			0.1～1.7					
前骨髓球			2.1～4.1					
			1.9～4.7					
骨髓球			8.2～15.7					
			8.5～16.9					
後骨髓球			9.6～24.6					
			7.1～24.7					
桿状核好中球			9.5～15.3					
			9.4～15.4					
分葉核好中球			6.0～12.0					
			3.8～11.0					
【好酸球系】			1.2～5.3					
			1.2～5.2					
好酸性骨髓球			0.2～1.3					
			0.2～1.4					
好酸性後骨髓球			0.4～2.2					
			0.2～2.2					
好酸性桿状核球			0.2～2.4					
			0～2.7					
好酸性分葉核球			0～1.3					
			0～1.1					
好塩基球			0～0.2					

検 査 項 目	検査所要時間	検 査 方 法	基準値	単位	採取容器	採取量	備 考	基準値の出典（引用）
【赤芽球系】	2～4日	MG染色	18.4～33.6	%	塗抹標本 数枚		検査日：月～金	スタンダード検査血液学 第4版
			15.0～36.2					
前赤芽球			0.2～1.3					
			0.1～1.1					
好塩基性赤芽球			0.5～2.4					
			0.4～2.4					
多染性赤芽球			17.9～29.2					
			13.1～30.1					
正染性赤芽球			0.4～4.6					
			0.3～3.7					
リンパ球			11.1～23.2					
			8.6～23.8					
形質細胞			0.4～3.9					
			0～3.5					
単球			0～0.8					
			0～0.6					
細網細胞			0～0.9					
			0～0.8					
M/E比	1.5～3.3							
	1.1～3.5							

検査所要時間は受付時間外に提出された検体を除く

緊急報告値(パニック値)

2024/9/1 作成

	検査項目	緊急報告基準値	報告単位	備考
血液検査	白血球数 (WBC)	1,000/ μ L以下, 25,000/ μ L以上		・ 初検時のみ報告 (2回目以降は除く) ・ 新生児は除く
	ヘモグロビン (Hb)	5.0g/dL以下, 20.0g/dL以上		
	血小板数 (PLT)	3万/ μ L以下, 100万/ μ L以上		
	末梢血液像	芽球 0.5% (200カウント) 以上出現時		
		好中球 10 % 未満時 (但し, 血液疾患を扱わない科の外来で初回検出時に報告)		
生化学検査	ナトリウム (Na)	110以下, 170以上	mmol/L	・ 緊急・至急検査、 2回目以降、透析患者、 新生児および規定外材料 は報告対象外
	カリウム (K)	2.5以下, 6.5以上	mmol/L	
	血糖 (Glu)	50以下, 500以上	mg / dL	
	アミラーゼ (S-AMY)	500以上	U / L	
	尿素窒素 (UN)	80以上	mg / dL	
	総ビリルビン (T-Bil)	12.0以上	mg / dL	
	カルシウム (Ca)	6.0以下, 14.0以上	mg / dL	
	A S T (GOT)	500以上	U / L	
	A L T (GPT)	500以上	U / L	
	L D (乳酸脱水素酵素)	1000以上	U / L	
輸血関連	直接クームテスト	(+)		・ 初検時のみ報告
血ガス	血液ガス分析 (動脈血 pH)	7.2以下, 7.6以上		・ 報告対象外
細菌検査	[血液] 塗抹・培養	菌検出時		
	[髄液] 塗抹・培養	菌検出時		
	便培養	指定感染症検出時		
	耐性菌検出	菌検出時		

生理機能検査	12誘導心電図・ホルター心電図	・心室頻拍 ・心拍数150bpm以上、心拍数40bpm未満（ただし16歳以上） ・Mobitz II型房室ブロック ・III度（完全）房室ブロック ・2.5秒以上の心停止 ・ST低下，上昇 ・著名なQT延長（500msec以上） ・RonT型心室性期外収縮 ・新たに脚ブロックまたは陰性U波が出現した場合 ・ペースメーカー機能不全		・初検時のみ報告（既知の場合は除く）
	マスター負荷心電図	・心電図と同様 ・負荷前禁忌所見 ・負荷後のST変化 ・負荷後の不整脈		・初検時のみ報告（既知の場合は除く）
	呼吸機能	SpO2 < 85%の実施確認		
	脳波検査	検査室での大発作		

生理機能検査
超音波検査

	直ちに対応すべき「緊急所見（値）」	「生命が危ふまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常所見／値で、直ちに検査を中断し、対応を要すると判断される」		速やかに対応すべき「準緊急所見（値）」	「生命が危ふまれるほど危険な状態にあることを示唆する異常所見／値で、検査後直ちに対応を要すると判断される」
	直ちに対応すべき「緊急」所見	考慮すべき重篤な病態／疾患		速やかに対応すべき「準緊急」所見	考慮すべき重篤な病態／疾患
頭部	他の頭蓋内動脈が描出できているにもかかわらず、対象頭蓋内動脈の描出ができない場合（神経症状出現時）	頭蓋内動脈閉塞（脳梗塞急性期）	頭部	深い脳実質内高輝度エコー所見（神経症状出現時）	①脳出血（急性期）
頸部	oscillating thrombus	①急性頸動脈閉塞（脳梗塞急性期・神経症状出現時）	頸部	・可動性プラーク ・形状が変化したプラーク ・急速に進行したプラーク	②動脈原性脳塞栓（神経症状の出現なし）
	フラップ（flap）＋二腔	②大動脈から波及した頸動脈解離（脳梗塞急性期・神経症状出現時）		CEA・CAS 後血流シグナルなし	③ CEA・CAS 後急性動脈閉塞（術直後）
	可動性プラーク・形状が変化したプラーク・急速に進行したプラーク	③動脈原性脳塞栓症（脳梗塞急性期・神経症状出現時）	心臓	・弁葉の急激な可動性低下、弁口血流速度の急激な増大 ・人工弁の弁輪縮着部の動揺、縫合部離開、急激な弁周囲逆流の増加（カラードプラー法） ・血栓、パニヌスなどの存在	①急激な血行動態変化を生じうる人工弁機能不全
	心電図およびパルス波形の徐拍化	④頸動脈洞圧迫による失神（頸動脈洞症候群）		・僧帽弁口血流連波が偽正常化～拘束型 ・肺高血圧 ・左房拡大 ・下大静脈の拡大と呼吸性変動の低下	②心不全の新規発症、急性増悪
心臓	・冠動脈の支配領域と合致する新規の左室局所壁運動異常 ・左室下壁の壁運動異常に伴う右室壁運動異常	①急性冠症候群		・重症弁狭窄 ・重症弁逆流	③新規の重症弁膜症
	・全周性の心膜液貯留（極少量のものもある） ・拡張早期における右室と右房の虚脱 ・下大静脈の拡大と呼吸性変動の減弱／消失	②心タンポナーデ	腹部一般	フリーエアー	消化管穿孔
	・右室拡大、右室壁運動異常（McConnell サイン） ・三尖弁逆流血流速度の増加（右室圧上昇を伴う場合） ・右房、下大静脈の拡大	③急性肺血栓塞栓症	消化管	蠕動の消失した腸管拡張 発熱や圧痛を伴う肝腫瘍像	①絞扼性腸閉塞 ②肝膿瘍
	・新規の心腔内可動性 異常構造物	④新規の可動性 心腔内腫瘍（血栓、腫瘍、疣腫）	胆道	発熱を伴う肝外胆管拡張 肝内胆管拡張	①急性胆管炎 ②閉塞性黄疸
	・左室から右室へのシャント血流 ・シャント血流観察部位の左室局所壁運動異常	⑤急性心筋梗塞に伴う心室中隔穿孔	膵臓	液体貯留を伴う胆嚢腫大	③急性胆嚢炎
	・左室壁が局所的に菲薄化して瘤状に突出（瘤を形成する壁に筋層を含まない）	⑥新規の仮性心室瘤	婦人科	液体貯留を伴う嚢腫大	急性嚢炎
	・新規の重度僧帽弁逆流（カラードプラー法） ・乳頭筋または腱索の断裂 ・連続波ドプラー法による僧帽弁逆流波形のカットオフサイン	⑦乳頭筋・腱索断裂に伴う急性重症僧帽弁逆流	腎臓	圧痛あるいは渦巻き状の捻転像を伴う卵巣腫瘍	卵巣腫瘍茎捻転
	・僧帽弁前尖の異常前方運動（SAM） ・心室中層基部の肥厚（肥大型心筋症あるいはS字状中隔） ・左室流出路血流速度の増大（4.0 m/s 以上） ・心室細動、心室頻拍、高度・完全房室ブロック、高度徐脈、ペースメーカー機能不全など	⑧新規の重症左室流出路狭窄	分枝動脈	両側の腎盂（腎杯）拡張 発熱や圧痛を伴う腫瘍像（内部エコーを伴う液体貯留）	①両側水腎症 ②腎膿瘍
		⑨重篤な不整脈		上腸間膜動脈内充実エコー＋血流シグナル欠損 内臓動脈瘤	①上腸間膜動脈閉塞（血栓症） ②内臓動脈瘤
			大血管（腹部含）	腹部瘤径 55 mm 以上（直径、最大短径） IVC 内腫瘍像と連続した肝・腎腫瘍像 瘤＋to & fro 所見 胸部瘤径 55 mm 以上	①腹部大動脈瘤 ②IVC 内腫瘍塞栓を伴う肝・腎腫瘍 ③仮性動脈瘤 ④胸部大動脈瘤
腹部	デブリエコーを伴う腹腔・後腹膜腔の液体貯留 ＊デブリエコー：液体の中に現れる沈殿物などに由来するエコー	①臓器損傷 ②腹腔内出血 ③肝がん破裂 ④妊娠反応（＋） 異所性妊娠 ⑤妊娠反応（－） 卵巣出血	末梢動脈	閉塞所見（oscillating thrombus など） 瘤＋to & fro 所見	①急性動脈閉塞（新規グラフト閉塞含む） ②仮性動脈瘤
腹部血管	内臓動脈血管壁の断裂＋周囲の無エコーまたは血腫	内臓動脈瘤破裂	下肢静脈	近位型血栓（中極型血栓） 浮遊型血栓	深部静脈血栓症急性期
大動脈	新規のフラップ（flap） 腹部大動脈瘤＋周囲無エコーまたは血腫	①急性大動脈解離 ②大動脈瘤破裂			

・初検時のみ報告
（既知の場合は除く）

※日本超音波医学会 用語・診断基準委員会 超音波検査の「パニック所見：緊急に対応すべき異常所見」より抜粋